

令和6年度 村上市総合教育会議

開催日時：令和6年12月24日(火) 14時30分～16時20分

開催場所：村上市生涯学習推進センター 大中会議室

出席者：【構成員】高橋市長、遠藤教育長、横山教育長職務代理者、大滝教育委員、板垣教育委員、小川教育委員
【事務局】平山生涯学習課長、小川学校教育課長、仙田管理主事、今井参事、木村指導主事、鈴木課長補佐、中山課長補佐、吉井課長補佐、片岡課長補佐、加藤課長補佐、佐藤課長補佐、菅原主幹、田中観光課長、村山課長補佐、長谷部総務課長、田中参事、菅原主査
【傍聴者・報道関係】なし

会議次第：1. 開会
2. 市長挨拶
3. 教育長挨拶
4. 意見交換
 (1) 文化財の利活用に関する取組について（生涯学習課）
 (2) 文化財の利活用に関する取組について（観光課）
5. その他
6. 閉会

会議内容

1. 開会

出席者に配布資料の確認をした上で、会議を開会した。（総務課長）

2. 市長挨拶

本年も残すところわずかという時期の極めてお忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。

年が明けると元旦マラソンが行われますが、今回は記念大会となり、スペシャルアンバサダー4人に加えて、ニイガタ姉さんにご参加いただきますので、にぎやかに開催できると思っています。

今日のテーマである文化財についても関連しますが、今年、北前船の寄港地船主集落ということで日本遺産の認定をいただきました。

加えてもう一つ、この北前船の寄港地船主集落の中でも、とりわけ伝統的工芸品のある自治体が8つあります。加賀市は蒔絵、塗り物の文化、備前市は備前塗というように、非常に著名な伝統的工芸品があります。村上市もその8つの自治体の中に入っています。この伝統的工芸品を持ってる8自治体で連携をして、いろいろな形でプレゼンテーションをしていかないかという話をしています。我々日本人として、こういったものをしっかりと守りながら発信をしていくということは非常に重要です。

さて、令和7年4月13日から大阪関西万博がスタートします。現在、世界167カ国地域から参加いただき、パビリオンの建設も進んで非常に良い万博になるなと思っています。村上市も参加している首长連合では、この万博を通じて世界に発信していこうというような取組みをしております。そうした中でこの北前船の繋がりも非常に大切になります。

また、村上市は食の部分でも他の自治体と繋がっており、今年の2月にスタートした『おにぎりサミット』は、現在11自治体に参加しています。日本の誇る食をこの機会に世界に展開しようと考えております。

リアルに体験できる伝統文化日本というものと同時に、これまで積み上げてきたその歴史的な資産をしっかりと融合させながら展開をしていくというのは非常に重要であると思っています。ぜひ、今日のテーマについても、皆さんから貴重なご意見をいただければと思っています。

そうした中で伝統と食をつなぎ合わせる村上市の誇る鮭の文化ではありますが、鮭が捕れなくなっています。昨年の捕獲数が7,900尾で今年は2,700尾なのですが、4年前には900万尾放流しています。鮭が三面川に帰ってこれなかったのは、地球環境が大きく変化をしている表れなのだろうと思っています。このまま放置しておけば鮭の捕獲数がゼロになるのは明らかなので、人間の知見、知恵を投入して、しっかりとこの貴重な歴史的な資産を伝承していくということが重要だと思っています。今日はせっかくの機会ですので、私の方から現状を含めてお話をさせていただきました。本日は何卒よろしくお願いいたします。

2. 教育長挨拶

先週12月21日土曜日、村上市教育情報センターで新潟県教育委員会主催による県立高校の将来構想、中長期を見据えた魅力と活力ある学校づくり案の説明会が開催され、県内の6つのエリアのうち、本市が属する第1エリアにある県立高校の将来をどう考えればよいのかということを中心に説明がありました。村上市内には村上高校、村上桜ヶ丘高校、村上中等教育学校、荒川高校の4校があり、それぞれ特色を打ち出して生徒募集をしておりますが、新しい時代に求められる力の育成、多様な生徒への対応、中学校卒業生数のさらなる減少を視点に将来構想が検討されているとのことでした。

第1エリアに関しては、令和10年度から令和16年度に学校の再編整備がなされるようです。再編整備にあたって、主な検討事項として5つ挙げられております。中高一貫教育校の実施形態の転換、セルフデザインハイスクールの設置、産業高校の設置、総合学科のあり方、小規模校の統合が示されており、県立高校が統合されたり新たな形態の学校になったりするようです。現時点でどこの学校がどうなるのかは一切示されておりませんが、市内外から多くの生徒に来てもらう、魅力ある学校を目指してもらえよう働きかけていかねばならないと考えております。地域の将来を担う子供たちの進学先がどう変化するのかは大きな関心事になるはずです。教育委員の皆様も注視していただければ幸いです。

本日の協議題は文化財の利活用に関する取組みについてです。12月議会の一般質問でも、日本遺産北前船寄港地の本市の構成文化財の保存や情報発信、活用について質問がありました。広い地域に多くの貴重な文化財や伝統芸能を有する本市において、その保存や継承魅力のアピールは、地域の発展に欠かすことのできない施策だと思います。市長部局と教育委員会が密接に連携し、具体的方策を検討していきたいと考えます。本日はどうかよろしくお願いいたします。

3. 意見交換

(1) 文化財の利活用に関する取組について（生涯学習課 吉井課長補佐）

文化財に関する業務は文化財保護法のもとで行っておりますが、この第1条に『この法律は、文化財を保存し、かつその活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献すること目的とする』とあります。ここ数年、文化財の活用ということが注目されていますが、本来保存と活用があって文化財保護であるということが大前提です。各自治体に属する専門職員は緊急発掘に追われることが多く、なかなか活用まで手が回っていないというのがこれまでの現状でした。それにつきまして、国の方から文化財の活用にも力を入れてほしいということがあったわけでございます。その中で、平成30年に文化財保護法と地方教育行政の組織及び運営に関する法律、この二つの法律に関する改正が行われました。改正の内容については大きく二つの柱があります。

一つ目の文化財保護法の一部改正で今日ご紹介したいのは、地域における文化財の総合的な保存活用の推進ということです。これは未指定の文化財を含めた保存と活用について国、都道

府県であれば大綱、市町村であれば地域計画というものを作成して、文化庁の認定を受けるという趣旨のものです。

大きな柱の二つ目は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、これまで教育委員会の所管だった文化財保護事務を条例によって首長部局で担当することができるようにするものです。これには文化財保護事務だけではなくて、社会教育や一般文化やスポーツなども含まれます。これにつきましては、文化財を保存優先から観光客目線での理解促進そして活用へと、文化財を通した稼ぐ仕組みづくりということが政策の中身です。文化庁は過疎化、少子高齢化などを背景に、未指定を含めた文化財をまちづくりに生かしつつ、その継承に取り組んでいくことが必要と言っており、未指定を含めて、これまで一部の地域の方しか知らなかった文化財を掘り起こして、皆に知ってもらおうということが趣旨です。全国に中核市が62市ありますが、そのうち25市が平成30年改正により市長部局に文化財保護事務を移管しています。新潟県では20市4町4村のうち、新潟市、三条市、小千谷市、見附市、佐渡市、阿賀野市の6市が移管しております。

このような流れについて、平成30年改正前に国の文化審議会において四つの提言が示されております。

一つは、専門性や技術的判断の確保は大丈夫なのかということ。

二つ目は政治的中立性や継続性、安定性を確保できるのかということ。

三つ目は、開発行為との均衡の確保。

四つめは、学校教育や社会教育との連携は大丈夫かという四つの提案が示されてはいるのですが、今のところ新潟県や他の市町村、県外の自治体の話をお聞きしても、懸念される事態に至っていないという状況です。その理由ですが、観光政策の視点を持って組織を構成する、いわゆる市長部局の観光部局に文化財保護事務を持っていった自治体も、これまでどおり教育委員会に残って文化財保護事務を行った自治体いずれも文化財の活用に力を入れているためと考えます。教育委員会にあった文化財の職員もしくは組織が市長部局に行っても同じメンバー、同じ内容でやっておりますので、文化審議会が懸念したようなことは起きなかったということが理由だと思われております。そこでも文化財保護部局と観光部局の間では、住み分けが行われているようです。

村上市はどのようなことを行ってきたのかについてですが、ここにいくつか列挙いたしました。若林家住宅や市の武家住宅などの建造物につきましては、一部まだ済んでいないところもありますが、これまで屋根等の修理を繰り返し実施しています。また、村上城跡や平林城跡の史跡につきましては整備の計画に基づいて石垣や土塁などの整備を進めているところです。次の重要文化財、これは奥三面遺跡群の元屋敷遺跡から出土した出土品なのですが、専門の機関に修理を依頼するとともに、縄文の里・朝日という施設に防火設備を整備した収蔵庫を作って保管しております。

同じく奥三面から見つかりましたまたぎの資料です。山村生産用具という名前で国の重要有形民俗文化財に指定されているもので、旧荃太小学校を利用した特別収蔵庫に保管しています。

続きまして、村上祭の屋台行事は継続して屋台や用具の修理を行い、その際、保存の前後の状態を細部にわたって図面や画像等で記録しています。新調する際には、使用しなくなった旧部材につきましても文化財という考え方のもとで保管してるところです。現在、いくつかの町内で修理が完了または継続しているのですが、今後町内ごとに修理の履歴がわかるように報告書を作成して、各町内や市民の皆様に見ていただけるようにしたいと思っております。

無形民俗文化財、民俗芸能ですが、これは動画で記録、保存しています。民俗芸能につきましては、後継者不足から休止している保存会や団体もありますので、動画として記録、保存して、地元から復活の動きがあれば対応したいと思っています。

天然記念物である樹木等につきましては、所有者から樹勢回復や土壌改良の相談があれば助言をしたり、専門家と一緒に現地へ行ったりしています。

次に文化財保存の課題について、1つ目は指定や未指定に関わらず、市の保管している古文書や民具等の紙や木材で作られた資料のうち、一部は郷土資料館の温湿度が管理された保管庫にあるのですが、それ以外のものについては温湿度管理が無いところで保管している状況です。

2つ目として、個人所有の資料、例えば写真の右上、これは脇川集落の宝蔵寺のお堂にある船絵馬なのですが、保管状況が悪い状態で置かれているものもあります。

3番目としまして、近い将来、埋蔵文化財、遺跡の出土品の保管場所が不足してしまうことも懸念されています。

4つ目としまして、先ほど写真、動画で記録というものをご紹介しましたが、これらデジタルデータによる永久的な保存法については、まだ本市では未検討の状況であります。

これら4つの課題のうち喫緊の課題としては保管スペースの不足、2つ目として資料にとって良い環境ではない保管状態であるということです。3つ目は個人所有の未発見資料の散逸です。住む人や後継ぎがいなくなって、特に古文書などが散逸するということが多々見られます。個人所有の未発見資料につきまして、調査をしっかりと行って所在を確認することが重要と考えています。

続きまして、文化財の活用についてご紹介します。

主に生涯学習課が行っている取組みは、文化財を知ってもらうための周知や発信という方法と文化財を見るだけでなく実際に体験してもらうという二つの手法で実施して参りました。例えば、村上地域のまちづくり協議会が行っているお祭りの体験講座であったり、国史跡や発掘調査を行った際の現地説明会や講演会、そしてリーフレットの配布などです。山元遺跡におきましては、遺跡だけではなく周りに貴重な植物も自生しているので、地元の植物保護団体と一緒に現地解説会を毎年行っているところです。

大須戸能薪能につきましては、セリフを入れた動画配信サイトを公開してるところです。その他、城下町の散策、テーマを絞った資料の展示会、また先日行いました日本遺産の北前船講演会等を行っているところです。

今後さらに活用が期待される文化財をご紹介したいと思います。日本遺産北前船寄港地船主集落に本市が追加認定されましたが、これまでは主に個々の指定文化財等の活用が図られてきました。日本遺産というものは、地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化伝統を語るストーリーの中で重要なものを日本遺産に認定されてるわけですが、色々な文化財を複合したそういうストーリー性が重要だということです。

もう一つは、本市で令和7年度に策定する文化財保存活用地域計画ですが、現在、各地域に出向きまして地域の皆様方からどんな文化財があるかなど、聞き取り調査をしているところですが、個々では注目されてこなかった未指定のものも文化財の中のストーリーとして活かすことによって地域の持つ魅力的な歴史文化を蘇らせるということも考えています。

ストーリーの例として3つ挙げてあります。

村上市は5市町村が合併しましたが、その中にはたくさんの資料があります。山北地域から荒川地域まで含めた江戸時代の後期から明治時代の海運に携わった人々のストーリー。あと鮭や茶や漆などのテーマで、縄文時代から現代までの人々の生活に係わるストーリーというものを想定してはどうかと考えたところです。

このような文化財の活用につきましては課題もたくさんあります。1点目は個々の文化財に限った情報発信に止まっているということです。2点目は、令和7年11月ユネスコの無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』に村上祭の屋台行事が拡張登録される予定になってるわけですが、この村上祭の屋台行事をどのように活用していくか。3点目として、先ほど文化財で稼ぐという言い方をしましたがけれども、インバウンドも含めた観光客目線の活用が弱いということがあります。

最後に、取り組みの方向性についてお話ししたいと思います。

まず、1つ目が日本遺産北前船寄港地・船主集落の追加認定をきっかけとして、これまでできなかった文化財の活用手法の転換、個々の文化財の活用だけではなく、これを組み合わせた活用をやっというと考えているところです。2つ目として、村上市文化財保存活用地域計画の中において、まだ未発見の新しい文化財を取り込んでストーリー化して活用を図っていくことによって、村上市の文化財の歴史がより立体的になるのではないかとということです。文化財保護部局は文化財の保存が大前提で、魅力を発信していくことも大事だと思いますし、関係部局と連携してその両方を実践していきたいと思っています。もう少し歴史や文化財の掘り起こしを進めまして、それを要素として観光的な活用が図れるような、そういう連携を図ることが出来ればと思ってるところです。

【質疑・意見交換等】

○大滝教育委員

今まで文化財保護部局が行っていたことを市長部局で担当が可能になったとお話がありましたが、村上市では文化財保護部局が市長部局にはならないということなのではないでしょうか。それと文化財保護部局と観光部局がそれぞれ住み分けをしていくということだったのですが、2つの部局がもう少し強力的に連携していかないとうまくいかない部分がたくさんあると思うのですが、その辺の今後の取組みについてはどうなのでしょう。

○吉井課長補佐

組織については、申し上げられない部分もあります。2点目の観光部局との連携につきましては、私たちの方からのアプローチも少なく、連携不足ということは否めません。日本遺産の認定を受けましたが、そもそも日本遺産というのは文化財を観光に活かそうという中で進んでいるものだと私は理解しておりますので、私どもの持っている情報、活かし方を観光部局と密に共有したいと考えております。

○大滝教育委員

連携ということなのですが、今後もう少し強力的に連携していくということの方法論といえますか、どういうふうな方法で連携をしていくのでしょうか。

○高橋市長

日本遺産について、本市は17の構成文化財があります。当時の日本では村上市が漆の産出量が一番多く、北前船を使って国内に流通をさせていたという歴史がありますので、構成文化財を効果的に使っていかうと考えているところです。

文化財保護部局を市長部局に移管しなかった理由ですが、これについては市長部局に移管する必要はないのではないかと考えています。教育委員会は稼ぐことができないとか、観光の取組みができないといったことはありません。専門的な知見を有しているのは教育委員会部局ですので、そこを中心にやってもらっています。

私も市内の文化財を見せていただきましたが、そこにあるのがわかっていても、それが劣化していくという現実がありますので、そうなる前に文化財に指定して欲しいということで文化財の審議会をお願いをしているところです。そういう意味では教育委員会部局と市長部局はしっかりと繋がっていると考えています。

私が聞いているところでは、村上市には年間でおおよそ8,500人の外国人が観光に訪れています。今まで8,500人も外国人が訪れることはありませんでした。とりわけ中国や韓国から訪れる方が多いのですが、村上市には意外と欧米の方々も訪れています。これは欧米向けにインフルエンサーを使って発信をしてきた成果なんだというふうに思っています。これからどんどんブラッシュアップしていくと、文化財をしっかりと活用できる仕組みができ上がっていくのかなと思っています。

○大滝教育委員

少し疑問なのは、ここに書いてあるとおり業務の住み分けをするのであれば、今までとあまり変わらないのではないかと思います。市長部局に移管することで、市長の強力なリーダーシップでもって、両方の業務をつなげていくことが可能なように思いますがどうなのでしょう。

○高橋市長

住み分けということですが、今も極端な住み分けはしていないと思いますので、市長部局に移管する必要はないのではないかと思います。

○遠藤教育長

今年度からお祭の事務を担当する職員を1人配置しました。そして、もう1人の職員を北前船の方に集中させるというようなことを今年度からしております。現在、文化財の保存活用のための地域計画を策定しておりますので、そこにきちんと位置付けて、誰が、いつまでにどうやるのか、人的面でもスケジュール面でもきっちりやっていけるような計画を令和7年度まで策定していかなければならないと思っております。ただ、計画をつくれればいいというわけではないと思います。計画を作ったら、それを確実に推進できるようにしていかなければならないのが大きな課題だと思っております。

(2) 文化財の利活用に関する取組について（観光課 田中課長）

本日は観光に活かす文化財の活用についてお話しさせていただきます。

まず、観光行政の現状について少し触れさせていただきます。お手元の資料の1ページ目ですが、これは国の第4次観光立国推進基本計画です。内容は大きく3つに分かれており、基本的な方針、目標、そして主な施策の3つですが、非常に目立つ形でインバウンドに向けた施策が掲げられています。本市としまして、この国の基本計画を踏まえ、加速度的に進む人口減少、首都圏への人口流出といった地方を取り巻く環境のほかに、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を経て、大きく変化をしているのが今の旅行トレンドです。これに対応するため本市でも具体的な施策について現在検討を進めているところです。

本市の観光はコロナ禍以降、地域内外からの来訪者の回復が徐々に見られる一方で、さらなる誘客や受け入れ環境の整備が課題となっています。国内においては、特に関西圏を始めとする国内外の誘客エリア拡大や村上市の市街地の回遊性向上が課題となっています。村上市には魅力ある観光資源が多くありますが、なかなかそれを網羅するような形での回遊性が確保されていませんので、回遊性の向上といった取組みが求められています。

また、近年の社会情勢等により旅行者の嗜好や旅のスタイルがダイナミックに変化を続けています。世界的な観光市場の拡大を背景に本市も地域資源を生かした戦略的な取組みが不可欠となっています。特にこの基本計画にもあるように、インバウンド市場は急速に拡大しており、その需要を的確に取り込むためには多言語化の対応、デジタル技術を活用した情報発信の展開などが必要となります。本市は持続可能な観光振興を通じて地域経済の発展を目指し、多様な旅行者に応える観光地となるように取組みを継続してまいります。

次のページに全国的な観光の動向につきまして調査対象の数値を記載しております。国内宿泊旅行者とありますが、これは外国人も含めて日本国内に居住している方に限定した数として、約4億9900万というふうな数字になっています。ここに過去最高の金額と表記しておりますが、今年度の7月から9月期においては7兆3360億円に到達しています。訪問者数に加えて消費額も過去最高になっています。

次のページですが、大きく変化を続ける旅行トレンド、多様なニーズなど求められる変化は多くあります。一昔前は国内も海外からの旅行者も団体旅行が多かったと感じていますが、現在は旅程、宿泊先、旅行先での楽しみ方といったものを旅行者個々でプランニングし行動することが増えています。観光地においては、非常に多岐にわたる要求に応えられるのか非常に大きな課題となっています。

こちらの紹介のページにイマーシブ体験とナイトタイムエコノミーというものがあります。これについて説明させていただきますと、イマーシブ体験は疑似体験するような、没入するような環境性のことを言います。観光先進地においては、宿泊施設に役者さんたちがいて、宿泊する観光客が疑似体験をするとか、食事に行くだけのレストランのほすが、そこのスタッフは歌って踊れるスタッフであって、レストランを舞台にしたミュージカルを身近に体験できるといったものが少しずつ増えているようです。本市においてどのような体験が可能であるかは、もう少し時間をかけてターゲットを絞っていかねばなりません。他の観光地ではこのような先進的な取組みをされているところもあります。ナイトタイムエコノミーについては、こ

それは言葉のとおり、夜の時間をいかに楽しむかということです。観光客をターゲットとした夜を楽しむための新たな取組みが進められております。本市でも年間通じて行事的なもの、村上大祭や瀬波大祭、岩船大祭は夜も楽しむことができますと思います。ただ、そういった単発的なものではなく、常時ナイトタイムを楽しむといったような仕掛けが求められているということです。

現在、インバウンドの消費額が年間8兆円に到達する勢いになっています。前年度2023年度のデータになりますが、本市の観光客数は177万3000人です。しかし、そのうち訪日外国人の数字は2,026人であり、非常に少ない数字だと思います。この理由としては、個々のプライベートの旅行プランニングが非常に多い中で、宿泊施設や旅行会社など各所からデータを提供いただくように努力していますが、村上市を訪れる外国人を正確に把握するのは非常に難しいところがあります。

インバウンドに活かす文化財の活用としまして、旅行プログラムや芸能の新たな捉え方、それからデジタル技術の活用などが挙げられます。まず、第1に文化財を観光資源として直接的に活用することです。これは現在も実施されているもので、例えば、歴史的な建造物や遺跡を訪れるツアーを企画し、観光客にその価値を伝えるというものです。また、文化財をテーマにしたイベントや祭りなどを開催することは、地域の魅力を発信することも可能になり、多くの人々の関心を引き寄せる、魅力を感じてもらえる方法だと思います。

次に、文化財を通じた教育的な取り組みも非常に重要であると感じています。地域の学校や関係団体と連携して、文化財に関するワークショップや講座を開催することで、市民の皆様と観光客にその文化財の重要性を伝えることが可能になると考えています。新たなプランを企画することで文化財への理解が深まって、その意義を感じてもらえることが期待できます。観光客の皆様が村上の文化を体験して、直接触れ合う中で学ぶ機会を提供することが重要であると思います。

次に、村上市を訪れるきっかけづくりです。現在、国内の観光客、海外の観光客に対していろいろなPRをしています。各地で検討されているのがAR（拡張現実）、VR（仮想現実）といった技術を用いて文化財の紹介をすること、皆さんお持ちのスマートフォンのアプリを使ってガイドサービスを導入すること、こういったことが今後不可欠になってくると感じています。訪問者に新たな視点から文化財を楽しんでもらうことができ、多くの観光客の皆さんに興味を持っていただける。また、直接訪れてもらえるきっかけになると考えています。

その延長線として、外国人の皆様方も安心して訪れることができるように多言語表記など環境整備が必要であると感じています。直接的に人と人が相対して説明できればベストなのですが、そこまでの人材育成は非常に困難ですので、二次元バーコードを使って文化財の情報を表示するなど、デジタル技術の利用を今後進めていかなければならないと思います。

現在、新たな計画の策定に向けて検討の最中ですが、その大きな柱としましては、自然と文化を守り未来へつなぐ観光地であるために持続可能な観光地を推進していくこと、それから世界に開かれた、インバウンド誘客の受け入れ体制を強化すること、これも非常に重要になってきます。観光課では引き続き地域と連携を強化しまして、生涯学習課の文化財保護推進、それにプラスして文化財の活用に向けた取組みを今後進めてまいります。その中で地域住民や関係者の皆様との協力を通じて、本市にある文化財が持つ価値を最大限に引き出し、地域社会全体の発展につなげていくことができるように努力してまいりたいと思います。

【質疑・意見交換等】

○横山教育長職務代理者

ちょっとお聞きしたいのですが、観光課の方で把握している、村上市内の文化財に観光客が訪れているという、実際にこういうところにこれだけの人数が訪れているといったデータはありますか。県外の観光客が村上のお城山にこれぐらい登っているというようなものです。

○田中観光課長

市の方で把握できるものと把握できないものがございますが、村上の三大祭りについて

は、旅館等から情報をいただくだけでなく、スタッフが実際にカウンターを持って計測して統計を取ったりしています。ほかにも、市内の各施設にデータを提供いただきまして、これは観光客に限りませんが、施設の利用客数というのは把握してございます。

○横山教育委員

なぜ、こういうこと聞いたかといいますと、村上市内に本当にいいものがたくさんあります。自然に関する文化財的なものでは、例えば、瀬波海岸の海水浴客は県内で伸び率1位です。そういったデータがきちんと把握されていれば、もう少し瀬波温泉の方に力を入れようとか方策が出てくると思うのです。

文化財はものすごくいいものがいっぱいあるにもかかわらず、ほとんど人が行っていないようなところもあります。それを観光課が教育委員会と連携しながらどう耕していくのか、その辺がちょっと今日の話では見えていないように思います。

たとえ2千人や8千人来たとしても、市外からの人の目線で考えないとお客さんは来ないと思います。私も市民ですので村上市の山北地域から荒川地域までいろいろな文化財がたくさんあるというのは分かっています。しかし、市外の方がそれをどう把握して、市外の方にとって本当にそれが魅力的なものになっているのか。

長野県の小布施町は人口1万人ちょっとの町なのに観光客がコロナ前でも130万人ぐらい訪れているのです。村上市は人口6万人なのに観光客が170万人しか来ていません。小布施には栗を食べに行くだけの人もいるし、北斎館に行く人もいるし、でも、トータルとして観光町になっているのです。私は小布施を見ると、村上市もこんなふうになればいいのと思います。鮭の文化、お茶の文化、堆朱文化、自然などいいところがたくさんあるにもかかわらず、トータルとしていまいちなのです。そこをやはり商工会議所など関係団体と連携しながら、3年以内にここまで伸ばすということを考えていく必要があるのではないかと思います。

私は教員だったので修学旅行の引率で佐渡や会津に何回も行きました。そのときにはトータルでその町の観光を考えています。修学旅行生を連れて行くには、学ぶところも必要だし、グループ行動ができる場所も必要だし、体験活動もできる場所も必要です。そういうところを耕していくと、SNSで広がって、結果的にインバウンドもついてくるだろうというのが私の考えです。

ここにインバウンドと書いてありますが、いま村上市がターゲットにするのはインバウンドではないだろうと思います。佐渡のように修学旅行生にたくさん来てもらえるような環境づくりをどうするのか。子どもが来れば、今度は大人が来ます。そのような視点で、市外の人を目をもう少し借りながら計画を立てた方が私はいいのではないかと思います。

○高橋市長

とてもいい視点だと思っています。先ほどインバウンドについて話をしましたが、3300万人を超えて、過去最大で4000万に達すると思います。でも、国内旅行者の数は4億人を超えているのです。1億2000万人の日本の人口の中で、国内の旅行者が4億人をはるかに超えていることを考えたときに、インバウンドも大切ですが、やはり国内の旅行者も大切だと思います。

コロナ禍のときに、スケートパークに修学旅行生がたくさん訪れました。そのままそれを停滞させないで継続させるというコンテンツが絶対必要だったのだろうと思っています。こういうものがターゲットになるんだな、社会情勢がこういう時にはこういうものも使われるのだなということを情報収集することも必要だというふうに思います。

あと、先ほどの観光客数の関係でご紹介しますが、お城山に市民の皆さんがたくさん登っています。東北電力さんのご協力で玄関に置いていただいているノートに、お城山に登った方が記入しているのを見ると、毎年約3万人はお城山に登っています。現在、屋内遊び場を利用している人が3万人、スケートパークに訪れる人が3万人です。それだけの人が来ているということはエビデンスとしてとれているので、その人たちにどうアテンドしていくのかということです。

例えば、屋内遊び場については、先程の SNS を活用した情報の発信、拡散のレベルなのですが、屋内遊び場は無料ですので、そのことがずっと SNS に掲載されています。そうすると利用者が増えるので、どのような形でその情報をバズらせるかという、その仕組みだと思います。

さきほど、AR や VR の話がありましたが、例えば村上天跡の史跡の関連で、門があった場所に標柱立ってます。その標柱に二次元バーコードを付けて、それを読み込むと歴史などの説明が表示されるようにできないかという提案をさせていただきました。これは市長部局から教育委員会に提案させてもらったものですが、あまりこれはこの守備範囲でこれはこの守備範囲だと思えないで行ったほうがいいのかなという感じがあります。今ご提案いただいた国内の旅行者を活用するのがまず先であるというのは、まさにそのとおりだと思いますので、そういったところも含めて進めさせていただきたいというふうに思っております。

村上天祭、瀬波まつり、岩船まつりについては、今回、瀬波まつりと岩船まつりが日本遺産になりました。村上天祭の屋台行事は、現在は国の重要無形民俗文化財ですが、令和 7 年 11 月にユネスコの世界文化遺産に追加登録をされるということになっています。大きな屋台行事 3 つすべて世界遺産、日本遺産という形になりますので、これはキラーコンテンツとしていいキーワードだなというふうに思っています。1 つのターゲットとしては来春からスタートする大阪万博。大阪万博には国内の方はもちろんですが、世界中から観光客が来るわけですので、そこに発信をしてインフルエンサーが気づく仕組みを作っておけば大きな効果があるだろうと思っています。村上天のスペシャルアンバサダーがインフルエンサーとして機能していくような形になるといいなと思っているのですが、いろいろなチャンネル使いながら進めていきたいと思っています。

○小川教育委員

これから夢が広がって、たくさん村上市に人が来ることが予想されて楽しい未来が想像できました。お祭りに関しても素晴らしく、いろいろなことで評価していただいていると思いますが、お祭りは村上市にとってハレの日なので、このハレの日に関しても、もっと PR していけたらいいなというふうに見ていました。

あと、山城が好きな人はたくさんいると思います。本になっていたり、映像になっていたりします。自分がその歴史の中に入ったようになってからもっと興奮するであろうし、まして海外の旅行者が自分もそのようになったかのように没入体験をすれば、これはこれで拡散されればいろいろな人がたくさん来るのだろうなと思います。

食に関しても、ひとつ 600 円とか 700 円といった値段のおにぎりであっても、海外の旅行者はそんなに値段を気にせず、おいしいものはおいしいということで召し上がっています。そのところも鮭の文化と融合させていけば、これは魅力があると思うので、たくさんの人を招くことができるのだろうと思っています。

言語表記のところで、もちろん多言語の表記もこれから必要なのだろうと思うのですが、やさしい日本語というか、日本語でわかりやすい表記があると、国内の旅行者の方たちに加えて、海外の方たちも日本がとっても好きな人であれば、目で見て自分で日本語を理解するというのはすごくいい体験になると思うので、それも素敵だなと思っています。

○高橋市長

ありがとうございます。大変貴重なお話とご提案もいただきました。

以前に外国から日本に来て暮らしている方々と話をしたときに、英語、フランス語、中国語、韓国語など多言語で表記する必要はないとお聞きしました。ローマ字で日本語の内容を表記すると外国の方はすぐわかるそうです。必要なところは多言語化して情報を提供すればいいのですが、それ以外のところはローマ字で書いてあるだけで十分ですという話がありました。

○板垣教育委員

私は文化財については有名なものしかわからないです。市民の方がどの程度文化財について知っているか分かりませんが、10 月に大阪に出かけて友人たちと話をしたときに、有名な

ところしかわからなくて、村上市に来てよというアピールがなかなかできませんでした。市の文化財について、一般市民にも知ってもらえるような仕組みがあったらいいなと思いました。

○高橋市長

大学の先生が仰っていたのですが、自分が誇り持っていて、自分の中に刷り込まれてるもの、それがいいものだと思ってるのが一番大切で、それはいろんな形で滲み出るのだそうです。村上市も歴史的風致維持向上計画で、国から指定されて非常に有用な都市としての機能を持っているのですが、それを市民一人一人がプライドを持って意識してるかというとなかなかそうではないと思います。

特にお祭りに参加している人たちや文化財を守っている人たち、山北のぼた餅まつり、海老江の北前船を復活させた人たちなど村上市内にはたくさんおられます。そのポイントポイントは皆さんよくわかっているかもしれないですが、全体で考えたときに村上市はこういう町ですというふうなことを言える人はなかなかいないかもしれませんので良い視点だなと思います。

この刷り込みの例としては、村上小学校と村上南小学校では3年生を対象にお祭り体験講座を行っています。村上大祭に参加してる子はもちろんですが、参加していない子たちもお祭り行事の山車を引くことを体験することで記憶に残るので、全体としてコーディネートできるような仕組みになるといいなと思って聞いていました。

○大滝教育委員

私は本業が漆の方なので、漆の体験プログラムを実施しています。旅行会社と提携してるのですが、頻繁に予約が入ってきます。去年は外国人の方も通訳と一緒に来て、漆の体験をしてもらうというようなことをやりました。外国人に漆の絵付けをさせると、日本人とはちょっと違った感性があって面白かったのですが、外国人が来ているところというのは、市が把握している以外にもたくさんあるのではないかと思います。外国人がこれだけ来てるということデータを把握しておけるような仕組みが必要なのではないかと思いました。

それと、漆の仕事もそうですし、私はお祭りにも地域の委員として関わっているのですが、一番切実に痛感していることは職人が不足しているということです。職人、専門の技術者がどんどん少なくなっていくような状況です。特に漆の場合は村上堆朱がなくなってしまうのではないと思うくらい、急速に後継者がいなくなっています。後継者をどういうふう育成していけばよいのかということが、教育のプログラムの中に入っていないのではないかと思います。どうなのでしょう。職人だけではなく、あらゆる面で専門技術者がいなくなっていると思います。文化財の担い手をもう少しきちんとした形で養成していくようなことも同時に考えていかないといけないのではないかと思います。

お祭りについては、少子高齢化や世帯数の減少で地域のコミュニティがものすごく弱体化していて、地域の行事を行うことがだんだん困難になってきている状況ですので、今後もうちょっと総合的に取り組みを考えていかないと駄目なのではないかと思います。

○高橋市長

おっしゃるとおり、一番の課題の部分だと思います。人口が減少してるので一人の人が複数のものをやらなければならないというような仕組みになっていくのだろうと思っています。限られた人員をいかに効率よく使っていくか考えていかなければなりません。

例えば堆朱に限定しますと、堆朱の後継者ということで、市で育成プログラムを作って堆朱組合をお願いして行いました。年間何百万という資金を投入して、その人に給料を払って習っていただいたのですが、成果が出なかったケースがありますので、これは行政がいくらそういう仕組みを作っても、その受け皿もしっかり機能しなければ駄目だなと思います。海面漁業の方では漁業者に対して資材の初期投資についての支援を国県市と連携してやってますので、寝屋の方では若手の漁業者が増えています。岩船の方も若手が頑張ってます。

その先は経営のコンサルにもお願いしたり、金融機関などにもお願いしてるのですが、M&A、事業承継です。特に農業はそうなのですが、受け皿の農事法人も手がいっぱいだという話になっていますので、異業種にも参入してもらって事業承継をM&Aの形も含めて進めていかなければならないだろうと思います。林業の方も林業分野に異業種の方が関わっているというものもあります。

お祭りの分野では、例えば村上祭りの話ですが、19町内だけで運営ができないので、乗り子も含めてよその子がたくさん参加しています。その子たちが七夕祭りになると、全然関係ないのですが、その仲間同士で繋がっていて七夕まつりにも参加をしているということがあります。自分たちの誇りとして、先ほどお話があったハレの日をみんなのハレの日にできるような形に持っていけると、限られた人員でいろいろなことができるのかなと思っています。良いご指摘をいただいたと思っています。

○大滝教育委員

後継者育成という、どうしても技術者研修みたいなものを中心になってくるのですが、ただ技術だけ教えてもらっても駄目だと思うのです。私のところにも若い人が漆の技術に興味あるので教えてくれないかと来ますが、技術を覚えたとしてもそれで生活していけるのかということです。せっかく若い人が志を持っていても生活がままならないということがあるので、作ったものがちゃんと売れて、職人としてお金を得ることができるというところまで考えないとプログラムは機能しないと思います。

さきほどの資料に金沢市の例も出ていましたが、金沢市には工芸工房といって染色や漆、ガラスなどいろいろな工芸について専門職を養成する機関があります。そこに入る人には市の方から生活費が出ますので、それで生活していきながら2年間ないし3年間の技術研修を受けることができます。金沢市と村上市では事情がいろいろ違うので同じことをしてほしいという事ではないですが、そういうふうなことも踏まえて後継者育成を考えてもらいたいと思います。

○高橋市長

鯖江や能登半島のほうでは工芸士の育成教育機関は必ず定員オーバーします。だからそういうふうな形の受け皿が能登半島における石川漆器や金沢漆器、鯖江もそうですけどそういう素地があるのだと思います。鯖江の漆産業は80億円を超えています。村上市の漆産業は、私以前に聞いたときは2.5億円だったのですが、去年は2億円ぐらいまで落ちているというふうな状況でした。やはりそこで稼げる仕組みをしっかりと作っていかなければならないと思います。年間の収入が400万円から500万円なければ、家族を持って生活して、子供を産んで、大学に上げるなんてとてもできないわけですから、そういうところも視野に入れながらやっていかなければなりません。行政でできるところはスタートアップだけだというふうに思っていますので、産業として成熟していくということがまず必要だなというふうに思っています。現在、市場の開拓は一生懸命行っていますので、そことうまくマッチングしてもらおうとありがたいなというふうに思います。これは産業界があって、そして行政がしっかりと産業支援プログラムを動かすことで進んでいく話だと思いますので、より効果的に取り組んでいきたいと考えています。

○小川教育委員

私は夏のお祭りのときに民謡流しに参加するのですが、胎内市では板額御前の仮装をした人が踊っています。オープンセッションで文化財にストーリーを持たせることがすごく大事だということを三条の先生からお聞きしたのですが、胎内市ではたくさん板額御前が踊っていて、村上市にはすごくかわいいサケリンがいます。一つ一つの文化財にストーリーを持たせることと、キャラクターだてするというのがいいのかと思います。村上城主のキャラクターや青砥武平治のキャラクターを作ると、外国の人に対しても、もっと視覚的な面から広がっていくのかなと思いました。

私は災害の関係で能登の方にお手伝いに行ったことがあるのですが、災害で被害を受けているのに、狼煙という道の駅では日本財団と一緒に最近流行の二次元の灯台守のキャラクタ

ーをたてたりして、観光も忘れていないのだなとすごく印象に残りました。

あと、能登に行ったときに自分が村上から来たことを話すと、北前船の関係で村上と能登について熱く語っていただいて、私は知らずにすごく恥ずかしい思いをしたのですが、やはり北前船のストーリーだけでなく色々なところにストーリーがあって、三条の先生はそれがお金になるのだと力説していました。私は今まで文化財をお金にすることをおもひに考へたことがなかったのですが、ストーリーというのは人の心を動かすから、場所や物、意味だけではなく、その背景にあるものやキャラクターで物語って人をたくさん動かしていくという話をされていたのもっともだと思って聞いてました。中学校や高校の若い学生さんが、時々村上市のPRのCMみたいなものを作って、駅とかで流れてるのを見たことあるのですが、ああいう感じでもっと視覚で見てわかるようなものがあったら楽しいかなと思って今日のお話を聞いていました。

○高橋市長

最後の村上藩主内藤家の御紋が下がり藤です。藤基神社に行ってもらえるとわかりますが、下がり藤の御紋がかかってます。朝日の板垣家に行くと、お殿様が板垣家に来て野点をするときに必ずこれで周りを囲うようにということで、下がり藤の御紋が付いた長さ40mから50メートル位の大きな幕が当時のまま残っています。

内藤家の下がり藤はずっと歴史のある江戸時代からの下がり藤なのですが、鬼滅の刃の物語の藤のキーワードとマッチングさせると非常にいいねという話をして提案したのですが、なかなか実現に至りませんでした。今みたいなキャラクター、それは生きるものの生物もあるし、動かないものの静物など色々なものがありますので、ぜひこれからどんどんそういうふうな形で動くといいなというふうに思っています。

これからの頑張りをお願いしたいなと思ってるのですが、スケートパークの施設連絡協議会を村上市含めて13の自治体で連携して活動しています。そのスペシャルサポーターをNGT48の清司麗菜さんをお願いしています。彼女はパリオリンピックのスケートボードのアナウンスをしたときに、実は村上市のスケートパークについて発言していますが、それだけでも全然動きが違います。そういう意味ではストーリーももちろんなのですが、インフルエンサーが発信をするというものも非常に重要だなと思いました。

5. その他

特になし

6. 閉 会